



三重県保健環境研究所

# みえ保環研ニュース

私たちは、皆様の健康で安全な暮らしを科学でサポートしています。

第49号(2013年6月)

## ～ 性感染症の発生状況と予防について～

### 性感染症とは

性感染症は、誰もが感染する可能性がある感染症であり、感染しても無症状であることが多く、また、尿道炎、帯下の増量、皮膚粘膜症状、咽頭の違和感等の比較的軽い症状にとどまる場合もあるため、感染した人が、治療を怠りやすいという特性を有しています。このため、不妊等の後遺障害や生殖器がんが発生し、又は後天性免疫不全症候群に感染しやすくなるなど様々な重篤な合併症をもたらすことが問題点として指摘されています。また、10代の半ばごろから20代にかけての若年層における発生の割合が高いことや、性行動の多様化により咽頭感染等の増加も指摘されています。(性感染症に関する特定感染症予防指針より：厚生労働省)

### 三重県での発生状況

これらのことから、三重県では平成19年度から21年度にかけて性感染症4疾患(性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖(せん)圭(けい)コンジローマ、淋(りん)菌感染症)の患者発生について、県内の性感染症にかかわる全ての医療機関に協力を依頼して調査を行いました。3年間で107機関から8,848人の報告がありました。最も多かったのは女性の性器クラミジア感染症であり、次いで男性の性器クラミジア感染症、女性の性器ヘルペス感染症、男性の淋菌感染症と続きました。年齢別報告数は男女とも20代が多い結果でしたが、男性の性器ヘルペス感染症、尖圭コンジローマの多発年齢層

は30代にシフトする傾向がみられ、この傾向は全国の発生動向調査の傾向と同様でありました。女性のクラミジア・淋菌の混合感染は20代でも多数の報告がありましたが、10代後半で最多となり、低年齢化が顕著に現れました。また、若年層について1歳ごとの患者報告数をみると、年齢が上がるごとに明らかな増加傾向を示し、特に女性は21歳で最大の報告数を示しました。(図1)

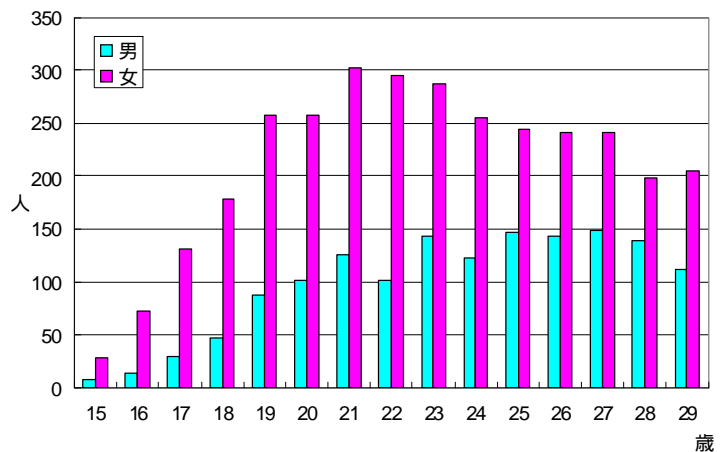


図1. 三重県における性感染症4疾患 15～29歳までの年齢別患者数  
【男:1466/3328(44%) 女: 3193/5520(58%)】

### 詳細な調査について

さらに、平成24年9月から10月の2ヶ月間、協力可能な医療機関に依頼し独自の詳細な調査様式による患者情報の把握を行いました。依頼した医療機関は、合計96機関(皮膚・泌尿器科系58機関、産婦人科系38機関)、調査内容は、性、年齢、疾患名(性器クラミジアと淋菌感染症は症状の有無、性器、咽頭の区別)の他、受診契機(パートナーが有症状、妊婦健診等)、その他の状況(性風俗産

業従事者(Commercial sex worker : CSW)との接触、コンドーム不使用等)についても記入していただきました。

その結果 53 機関(皮膚・泌尿器科系 30 機関、産婦人科系 23 機関)から協力が得られ、2 か月間の患者報告数は 263 人(男 114 人、女 149 人)でした。

男性の性器クラミジア感染症における無症状者は 22% (11/49) で、その“受診契機”は「パートナーが有症状」が 64% (7/11) と多く、女性の無症状者は 35% (35/101) で、その“受診契機”は「妊婦健診」が 23% (8/35)、「パートナーが有症状」が 14% (5/35) で、「その他」9 人には不妊治療(2 人)が含まれていました。

男性における“その他の状況”への回答は、「CSW との接触」22% (25/114)、「コンドーム不使用」16% (18/114) が多くありました。「CSW との接触」は 10~20 代では 1 人と少なく 30~40 代が 20 人と多くを占めたため、この年代で特に注意が必要です。

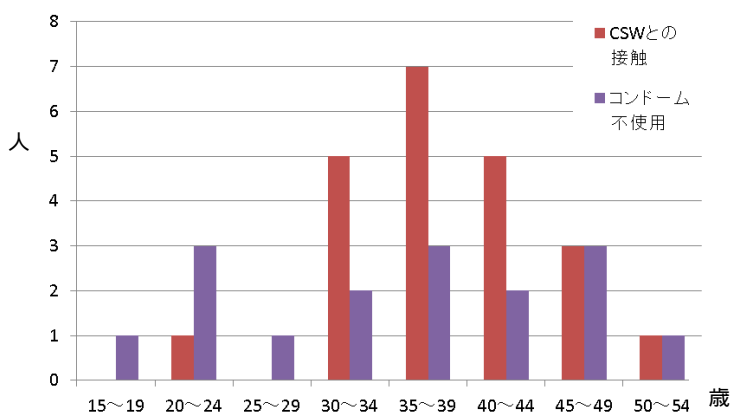


図2. 男性における「その他の状況」への回答

また、10~20 代で「CSW との接触」が少ないにもかかわらず多くの患者等が報告されていることから、若年層における性器クラミジア感染症のまん延が危惧されます。(図2)

## 予防方法と早期発見

性感染症の予防としてコンドームを使用することは、性感染症の原因となる性器及び口腔粘膜等の直接接触を妨げるものとして、性感染症の予防に対する確実かつ基本的な効果を有するものでありますが、コンドームだけでは防ぐことができない場合があることや、正しい使い方をすることが重要です。

また、子宮頸がんとともに、尖圭コンジローマについては、ワクチンによっても予防が有効です。

一方、性感染症として最も罹患の可能性の高い性器クラミジア感染症は、女性では無症状のことが多く、男性でも症状が軽微であることが多いため、感染防止のための注意を怠りやすくなります。検査や医療の積極的な受診による早期発見及び早期治療が性感染症の予防やまん延の防止になりますので、ご自身はもとよりパートナーに症状があるなど心配な方は、産婦人科、泌尿器科等の医療機関にご相談ください。

なお、これらの4疾患のほかにも、性的接触を介して感染することがある感染症は、梅毒や後天性免疫不全症候群、B型肝炎など多数ありますので、併せて注意が必要です。

### - 編集委員会から -

みえ保環研ニュースについて、ご意見・ご質問等がございましたら下記までお寄せください

### 三重県保健環境研究所

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11 TEL 059-329-3800 FAX 059-329-3004

E-メールアドレス hokan@pref.mie.jp ホームページ <http://www.mpstpc.pref.mie.lg.jp/hokan/>

三重県感染症情報センターホームページ <http://www.kenkou.pref.mie.jp/>